

津幡町の神社と祭神の分析—井上地区の神社

宮本眞晴

河北瀉湖沼研究所河北瀉歴史委員会¹

〒920-0051 石川県金沢市二口町ハ58

要約：石川県津幡町の井上地区の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード：津幡町、井上、神社、祭神

はじめに

萩坂谷・俱利伽羅谷・笠谷・旧津幡四町及び横浜（旧井上村）・種谷及び英田地区（旧東英田村）・中条に続き今回は井上地区の神社について考察する。

平凡社刊『郷土史大事典・日本歴史地名大系17・石川県の地名』p566 井家庄には『井上庄とも書く。北は津幡川流域，南は森下川流域に挟まれた地域に比定される。明治二十二年（1889）成立の井上村を遺称地とし、『和名抄』記載の加賀郡井家郷の郷名を継ぐものとみられる。近世の井上庄は現津幡町の川尻・庄・津幡・倉見以南，富田・竹橋・上藤又・大窪以西，現金沢市利屋町以北の「北方」と，現金沢市の八田町・南森本町以南，大場町・千木町・法光寺町・柳橋町以東，田島町以北の「南方」および現内灘町全域を含み（三州志）観修寺・二条両家の係争地となった領家職半分は「南方」をさすと推定されているが，南北朝期には近世の笠野郷（現津幡町）に相当する地域も庄域に含まれており（建武三年八月三〇日『足利尊氏奏状』京都御所東山御文庫記録），近世の井上庄が中世の庄域をそのまま継承したとはみなしがたい。』とある。

I 井上地区の神社・祭神・沿革

以下，それぞれの集落・神社・祭神・沿革について『石川県神社誌』に基づき、『河北郡誌』、『津幡町史』・平凡社刊『石川県の地名』の記述を付した。

※「河北郡誌」は転記の際，旧漢字・仮名等を書き換え，

適宜，句読点・読み仮名を加えた。

※文中の年号に西暦を加えた。

※〔江〕は江戸期の集落の様子を示す。

※神社名は『石川県神社誌』に拠った。

1. ^{くすし}醫師神社 旧村社 川尻ヨ175（写真1）
主祭神 ^{おこなむちのみこと すくぬひこなのみこと}大己貴命・少彦名命

由緒 もと延喜式内小浜神社境内摂末社にして天正十四年（1586）五月前田利家小浜神社の摂末社数十社を再興修理せらる。同十六年小浜神社境内より当地に移転造営す。明治6年（1873）8月石川県より小浜神社附属社に取りきめらる。（以下井上地区すべて由緒は同じ）昭和二十一年（1946）一月十日村社に列格さる。

（神社誌）

370年程前，川尻に疫病が流行して区民の死亡するものが相次いだ。信心深い徳右衛門が田を打っていると，鍬の先に血が付いてきた。掘ってみると木切れの化石があらわれ，鍬のあたった部分から血が流れていた。驚き畏れた徳右衛門が在所に持ち帰り，村人と共に朝夕礼拝したところ悪疫が忽ちおさまった。以来部落の中央にほこらを建て病よけの神として医師神社と名づけ（ママ）尊崇したという。安政三年（1856）改築された現社殿の棟札には，肝煎・組合頭などと並んで，「宮守徳右衛門」と記され，維新後宮森姓を名のって，代々宮番を継いでいる。徳右衛門家には，宮番料として免租の田一枚が給され，これを「宮田」さきの神体の掘り出された田を「宮伝」と呼びならわしたと言いつたられている。

¹ 連絡先 tel.076(288)2409 fax.076(288)2962



写真1. 醫師神社 (川尻).

【江】津幡川の左岸に位置。川尻船着場が置かれ、集落は本村のほか「まとば」がある（三州地理雑誌）。寛文十年（1607）の村御印の小物成には山役四八匁・湖網役一匁・狐船權役一〇匁（退転）であった（三箇国高物成帳）。寛文年間の百姓数三七（1673）三〇石余，同五年一六石余，天和元年（1681）七五石余，同二年六五石余，享保九年（1724）一二石余の新開がみられた（「河北郡村々調理書上帳」林文書）。文化四年（1807）の新開請高一四一石余は，百姓・頭振総家数一七七軒に分け，七八石余は惣百姓に高割とした（「潟縁乾場所申付状」川尻区有文書）。

新開田の用水には津幡川を利用した。当村北東部で川を毎春堰止めて川尻用水としたが，安政六年（1859）改作奉行の申渡しにより常設の川尻水門を構築した。同水門に対し川の氾濫に悩む川上の津幡村などから切払いの要求が出されたが，十村役より藩の決定として拒否された（「川尻用水普請可取懸申渡書」川尻区有文書）。以来，津幡川の富田水門・仮生水門以下の水利権は当村が確保。明治以後当地を主とする川尻用水普通水利組合（ママ）に引き継がれ（明治一八年「用水下堤防積記」川尻用水土地改良区蔵），現在の川尻用水土地改良区の水利権として認められている。水門切開を要求する津幡宿四カ村と川尻村の対立は豪雨ごとに繰返され双方に怪我人を出した（「辰六月津幡川洪水土居切出入和順一札」川尻区有文書）。明治以後津幡地区は県へ川の拡幅と直線化を申請したが，当地は水害の原因は津幡町中の川幅を狭めたことにあるとして譲らず（明治三一年「津幡川掘替工事許可反抗上申控」同文書），昭和四四年（1969）

の大型改修工事で初めて水害問題は解決した。

清水村^{こんかまち}軍加町に建てられた加賀藩の津幡御蔵は，河北郡南半部の年貢米を収納したが，川尻村と周辺各村の手舟は宮腰（みやのこし・現金沢市金石町）まで津幡川・河北潟を利用して運んだ（安政四年「潟下し御蔵米出船申合」岩佐文書）。当村の手舟は公用以外に運賃積として利用された。弘化五年（1848）当村の四人が津幡村^お税（稔っていない穀物）商・屎物商の米八三石を屎物代銀の名目で宮腰町商人へ運び，宿駅制違反に問われた（「自分米給人引米川舟積詮議一件」新田文書）。文久元年（1861）菜種二七石を石川郡から川尻村船着場で川船に積替え，杉瀬村油臼元商へ運漕下令などがある（「菜種潟下願」米田文書）。明治5年（1872）の宿駅制廃止後には米・薪炭を川下し，石灰・砂利・食料等を津幡村などへ運ぶ船が当村の水門で積替えられるなど，小港の賑いを呈した（河北郡誌）。明治中期川尻水門から河口まで津幡川の北方に新川を開削し舟運と田舟に利用した。文化八年（1811）の産物は浜方よりの屎取てんと船五隻・板舟一四隻・布一〇〇疋ほど・持網一四張・菅笠二〇〇階・わらじ二千足ほど・菜種二〇石ほど・とう網四束（「村々諸産物書上帳」新田文書）。天保年間（1830～44）の家数173（うち頭振51）人数841（「河北郡村々調理書上帳」林文書）。安政二年（1855）の家数201（うち頭振72）・人数893（「高免家数人数等書上」亀田文書）。

真宗大谷派性光寺は文明年間（1469～87）創立の道場と伝え，文政八年（1825）性光寺欣静宛達如下付の三朝高祖絵像などを所蔵。明治九年同寺庵に川尻区学校（現井上小学）が設立された。

（石川県の地名）

2. 住吉神社 旧無格社 川尻夕 156（写真2）

主祭神 底筒之男命・中筒之男命・表筒之男命

字川尻に在り。無格社にして底筒男之男命・中筒之男命・表筒之男命を祭る。永享二年（1430）の勧請とす。天正十四年（1586）五月前田利家内灘村なる小浜神社の撰末社修繕の為め米一百俵を給せらるるや，翌十五年三月本社にも修理を加ふといふ。口碑にいふ。本社祭神はもと津幡町庄の住吉神社に在はしが，或時石に化し，津幡川を



写真2. 住吉神社 (川尻).



写真3. 八幡神社 (中橋).

流る^{かぶら}蕪菁の葉に乗りて^{このち}此地に着き給へり。庄にては其^{がえ}婦社を乞ひ奉りしも肯んじ給はらざりしを以て、遂にここに社殿を建つ。依りて三月八日の祭礼を蕪菁祭りと称すといへり。

(河北郡誌)

住吉神社は川尻の東北端にあり、このあたりは昔「くろべいぶち」と呼ばれる沼地であった。九郎兵衛という人が、大洪水の際、人柱に立って災害を防いだのでこの名があったといい伝え、庄の住吉神社の祭神が、ある時石となって蕪菁の葉に乗りこのあたりに流れつかれた。庄へお返し申したが再び川尻に流れついたので、ついにこの地に堂を建ててまつた。三月八日を「かぶら祭」と称し、赤飯を炊き、仕事を休んで祝った。昭和二十年頃から、農作業の休み日が軽視されるともなつてかぶら祭も忘れ去られた。

(津幡町史)

【考察】

- ・ 醫師神社の祭神二柱は温泉・医薬の神であり、本地は薬師如来である。
- ・ 川尻住吉神社の祭神は三筒之男命であるが、庄住吉神社の祭神は綿津見命（底津綿津見命・中津綿津見命・上津綿津見命・安曇族の祖神）である。どちらの三神も航海安全の神で、「筒・ツツ」は古語の「星」を表わし、オリオンの三つ星を意味するという。川尻は津幡川・河北潟の水運で栄えた地区。

3. 八幡神社 旧無格社 中橋イ130 (写真3)

主祭神 ^{おきながたらしひめのみこと} 気長足姫尊・^{ほんだわけのみこと} 誉田別尊・^{おおささぎのみこと} 大鷯鷯尊・

^{たけのうちのすくねのみこと}
武内宿禰尊

字中橋に在り。無格社にして気長足姫命・誉田別命・大鷯鷯命・武内宿禰を祭る。天正十六年三月内灘村なる小浜神社より遷座すといふ。

(河北郡誌)

【江】 中ノ橋とも記す。寛文年間の百姓数五（高免付給人帳）。享和二年（1802）の河北郡引免根帳（林文書）によると、津幡川および河北潟近くのためしばしば水害にあい、作毛不熟のため困窮至極として寛保二年（1742）より享和二年まで六度免租。文化八年（1811）の産物として菜種二石ほど・布七疋ほど・^{かせ}紵九五ほど・さる縄九五束がある（「村々諸産物書上帳」新田文書）。天保年間（1830～44）の家数一〇（うち頭振一）・人数五一（「河北郡村々調理書上帳」林文書）。享保年間（1716～36）に河原市用水・御門池などを造成した引越十村の中橋久左衛門は当村の出身（「加賀郡先祖由緒書上申帳」瀬尾文書）。南方に鎮座する八幡神社はもと正八幡宮と称され、小浜神社の末社。その東方「いばらかぶ」に鎮座する水分社^{みずわけしや}は、明治十三年（1880）同地で良質の地下水を掘出して川尻村へ通水。同二十年井戸仲間が水神を祀ったもの。

(石川県の地名)

【考察】

上記の「水分社」は非宗教法人の神社で、石川県神社誌に記載は無い。旧津幡保健所前の神明鳥居の社で、津幡町上水道にも利用されている。この社は地元では「水のカンサン」と呼ばれている。水分社は普通「みくまりしや」と呼ばれる。語源は「水配り」から。祭神は^{あめのみくまりのみこと} 天水分神・^{たかおかみのみこと} 国水分神が主であるが「水神」としては貴船神社の高麗神・



写真4. 水分社.

みずはのめのみこと
岡象女命などがいる。

『河北郡誌』の記述を転記する。

名蹟

○水分社。字中橋に在りて、明治二十年の頃私祭する所に係る。初め当字に井を鑿つ時は水能く出づるも、川尻・中須加は其便を欠きしを以て、中橋の水を引きて飲用に供し、之これに対する感謝の意を表せんが為め、川尻の費用によりて小堂を建て、以て水神を祭れるなり。(写真4)

人物

○島與兵衛。字川尻が佳良成る飲料水を得るに至りし者実に與兵衛の力に依る。初め川尻に在りては河水を以て其用に供したりを以て、盛夏悪疫の流行するや実に惨憺の状を極めたり。與兵衛これ之を嘆じ、長江兵助と力を併せ、井を中橋くつさくに掘鑿して之を川尻ならに引き、以て衛生上著大の効果を獲たり。後之を倣ひて引水せし者多し。文政元年(1818)八月十五日歿す。

4. 八幡神社 旧無格社 五反田イ116

主祭神 氣長足姫尊・誉田別尊・比咩大神

字五反田に在り。無格社にして氣長足姫命・誉田別命・比咩大神を祭る。天正十五年六月内灘村なる小浜神社依り移転造営すといふ。

(河北郡誌)

【江】天正14年(1586)正月二二日の前田利家印判状写(黒津舟神社文書)には五段田村とある。延宝元年(1673)南方の潟端新村との入会地で六五石を新開(文化八年「河北郡村村書上帳」林文書)。文化八年(1811)の産物として菜種二石六斗ほど・



写真5. 八幡神社(五反田)の標額。八幡宮の上に元諏訪(右書き)の文字がみえる。

布三疋ほど・麻苧三貫目ほど・紵一千八〇〇ほど・ぬいこ縄三〇束ほど(「村々諸産物書上帳」新田文書)。天保年間(1830～44)の家数17(うち頭振1)・人数92(「河北郡村々調理書上帳」林文書)。安政二年(1855)家数22(うち頭振2)・人数95(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

(石川県の地名)

【考察】

・神社拝殿の標額には元諏訪八幡神社と彫ってある(写真5)。拝殿内の説明文に、小字諏訪田の田から石神を掘出し祀ったことが記してある。「諏訪」は開拓の神。潟端の加賀神社もその初めは諏訪神社である。

しかし、河北郡誌・神社誌には祭神としての諏訪(健御名方命)の名は無い。諏訪は開拓の神。

・真宗大谷派妙楽寺(呼称・ごたんだごぼう)は永正年中(1504～21)五反田に創建。正徳二年(1712)五反田村智円に宛て寺号が下付され、明治十二年に清水村軍加町(現・加賀爪)に移転。

5. 八幡神社 旧無格社 中須加ハ34 (写真6)

主祭神 氣長足姫尊・誉田別尊・比咩大神

字中須加に在り。無格社にして氣長足姫命・誉田別命・比咩大神を祭る。もと内灘村なる小浜神



写真6. 八幡神社（津幡町中須加）.

社末社の一なり。天正十四年前田利家其荒廢を嘆じ、米一百俵を給ひて修造せしむ。因りて翌十五年九月当村に遷座再建すといふ。

（河北郡誌）

中須賀とも記す（仮名付帳・圭邑名林）。寛文年間の百姓数8（高免付給人帳）。文化8年（1811）の産物として越中国今石動町（現富山県小矢部市）等より金沢への牽売米30石ほど・鮎四千ほど・菜種六石四斗ほど・ぬいこ縄六〇〇束ほど（「村々諸産物書上帳」新田文書）。天保年間（1830～44）の家数44（うち頭振10）・人数240（「河北郡村々調理書上」林文書）。安政二年（1855）の家数49（うち頭振13）人数254（「高免家数人数等書上」金田文書）。

（石川県の地名）

【考察】

- ・スカ（須加・須賀）は川水・海水などによって生じた砂地をいう。砂丘。浜すか（砂地）。

6. 野田八幡神社 旧無格社 横浜イ59

主祭神 譽田別尊・氣長足姫尊・大鷦鷯尊・武内宿禰命

八幡神社 字横浜に在り。無格社にして氣長足姫命・大鷦鷯命・武内宿禰を祭る。元と内灘村なる小浜神社の境内にありしを、天正十五年七月ここに鎮座せりといふ。

（河北郡誌）

【江】寛文年間の百姓数9（高免付給人帳）。文化八年（1811）の産物として麻^{あさお}字2貫ほど・布13疋ほど・

鮎750ほど・藍^{あい}2貫500目ほど・菜種8石3斗ほど（村々諸産物書上帳）。天保年間（1830～44）家数33（うち頭振14）・人数183（「河北郡村々調理書上帳」林文書）。安政二年（1855）の家数38（うち頭振14）・人数189（「高免家数人数等書上」亀田文書）。旧北陸街道の東方に鎮座する野田八幡神社はもと正八幡宮といい、小浜神社の末社。同街道東側の真宗普念寺は天文年間（1532～55）中須加に創建されたと伝え、延宝二年（1674）当地に移転した（寺社由来）。寛永19年（1642）本願寺宣如下付の蓮如絵像を所蔵。

（石川県の地名）

二つ屋事件跡

文禄元年（1592）4月14日、前田利長の家臣どうしの斬殺事件跡。現場は、「津幡の際」（「老摺摘録」一八）、「津幡と中条の間、二屋と申所」（「漸得雜記」）、「津幡より十四五町末の中条との間二屋に出」（菅君雜記三）に発生した。津幡川から約五～六〇〇m南の現津幡町横浜の街道と推定される。ここの小屋で待ち伏せした二人が、津幡まわりで来た五人を襲い四人を打ち果たし、つづいて舞台は守山（高岡）に移り百人以上の乱闘になった。「杉瀬越と申近道」（『加賀藩史料』）という津幡抜きのわき道は確認できない。

（歴史の道調査報告書 第1集北陸道（北国街道）p.61～62）

【考察】

- ・神社名にある野田は横浜の小字名。
- ・「二つ屋」とは「二軒屋」の意味であるが、横浜は北中条から出た人が作ったという文書を読んだ記憶がある。井上村の本村からは遠い。北中条と共通の「西島」「本多」さんの名字があるがどうなのだろうか。

II 祭神の出自と性格

以下に、これまで挙げた六座の神社の祭神の出自と性格について分析する。五十音順に示し、祭神を同じくする全国の有名神社も記した^{（註1）}。

1. 表筒^{うわつつ}之男命・中筒^{なか}之男命・底筒^{そこ}之男命 [天神族]

住吉神社 (川尻)

略して三箇之男命とも呼ばれる。父・伊弉諾命。イザナギが死んだ妻イザナミ (伊弉冉命) を尋ねて降った黄泉の国から逃げ帰り、筑紫 (九州) の日向 (宮崎県) の橘の小門の安波岐原で禊をした際、「上流は流れが強すぎるし、下流は弱すぎる。」と言い、中流で神体を清めた時、水底で底津綿津見神、中層で中津綿津見神、水上で上津綿津見神の綿津見三神。それと同時に底筒之男神 (命)・中筒之男神・表筒之男神の住吉三神が生まれた。

- 綿津見三神も住吉三神も航海・漁業の守護神。商売繁盛・縁結び・子授けの神。
- ワタツミ三神を祀る神社 神戸市垂水区・海神社。福岡市東区・海神社
- スミヨシ三神を祀る神社 大阪市住吉区・住吉大社

2. 大鷓鴣尊 [天孫族]

八幡神社 (中橋)・野田八幡神社 (横浜)

ササギは鳥の「ミソサザイ」とも「カササギ」ともいう。世界最大の陵墓の第16代仁徳天皇 (難波天皇) の別称。父・応神天皇、祖母・神功皇后。在任中、淀川の治水工事・をして、湿地だった大阪平野を干拓したという。「若宮八幡神」ともいう。

- 治水・干拓の神
- 神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮

3. 大己貴命 [地祇族]

醫師神社 (川尻)

(別名) 大穴牟遲神・大国主命・葦原色許男神・八千戈神・宇都志国玉神・大物主命等々。父・天之冬衣神、母・刺国若比売命。因幡の白ウサギの伝説で知られる「大黒様」のこと。多くの妻と結ばれた艶福家。越の国 (今の新潟県) の沼河比売命との間に建御名方神 (諏訪の祭神) が生まれた。少彦名命と一緒に日本の国造りを行い、後に天神族に国譲りする。上記の「ヌナカワ」は万葉集に「沼名河の底なる玉・・・」と登場し、実際に新潟県の姫川上流で、翡翠の山地が発見された。これは越の国と出雲の関係を表している。

- 国造りの神 (文化神)・農業・商業・医療・温泉・

縁結びの神。卜占の神。

- 島根県大社町・出雲大社 石川県羽咋市・気多大社

4. 気長足姫尊 [地祇族]

八幡神社 (中橋) (中須加) (五反田)・野田八幡神社 (横浜)

神功皇后のこと。別称・息長帯姫命。応神天皇の母。夫の仲哀天皇とクマソの征伐に向かう。夫は敵の矢で死亡。夫に代わりクマソを征伐。余勢を駆って朝鮮の新羅も征伐。凱旋後に生まれたのが応神天皇。神仏習合時代には「聖母大菩薩」と尊称された。聖母を祀った神社は九州に多い。地元では「しょうも」「しょも」と呼んでいる。16世紀、九州に抵抗なくキリスト教がいち早く広まった一因かもしれない。

- 子授け、縁結び、安産、商売繁盛、厄除けの神。
- 神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮。福井県敦賀市・気比神宮。

5. 少彦名命 [天神族]

醫師神社 (川尻)

父は神産靈日神。オオクニヌシと二人で国づくりに励んだ小さな神。「アメノカガミブネ」に乗って光り輝きながら現れた。スクナヒコナが病気になったとき、オオクニヌシが大分の速水の湯 (別府温泉) から竹筒で湯を引いて治療させた。

(伊予国風土記)

オオクニヌシと共に温泉・医薬の神。

- 温泉・医薬・国土開発・穀物・酒造の神。
- 横浜市緑区・医薬神社。大阪市東区道修町・少彦名神社

6. 武内宿禰尊 [地祇族]

八幡神社 (中橋) 武内宿禰命 野田八幡神社 (横浜)

父・比古布都押之信命、母・山下影日売。第12代景行天皇より成務、仲哀、応神、仁徳天皇まで五代の天皇に仕え、360歳まで生きたといわれる。

- ・延命長寿・武運長久・厄除け・商売繁盛の神。
- ・埼玉県日高市・高麗神社 福井県敦賀市・気比神社

7. 比咩大神

八幡神社（中橋）（中須加）（五反田）

比咩大神・比咩神は普通、男神の妻をいい、特に名が記されていない女神である。

8. 誉田別尊 [天孫族]

八幡神社（中橋）（中須加）（五反田）・野田八幡神社（横浜）

第15代応神天皇のこと。別称・品陀和気命・大鞆和気命。ヤマトタケルと第14代仲哀天皇の子。母4気長足姫尊（神功皇后。ときには父・仲哀天皇や武内宿禰）と共に全国2万とも3万とも言われる八幡神社の祭神。（第1位は稲荷神社の3万2千社）百済や新羅から渡来人を受け入れ、新しい文化を招来した天皇。

- ・文武の神。家内安全・交通安全・厄除け・開運の神。
- ・大分県宇佐市・宇佐神宮。京都八幡市・石清水八幡宮。神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮。

おわりに

- ・井上地区には延喜式内社は無い。また、津幡地区以外の神社に見られる石造物も見られない。
- ・「加賀志徴」に井上地区の各集落についての記述は無い。
- ・終戦後、村社に昇格した川尻の醫師神社も含め戦前は全て無格社であった。その理由は明治四年（1871）太政官布告によって定められた神社規則によって官幣大・中・小社は神祇官の所管、国幣大・中・小社は地方官の所管とされ、それ以外を諸社といい、府県社・郷社とした。一方、それと並行して、国家的な功労が認められた人物を祭神とする別格官幣社も設立された。また同年に郷社定則が制定され、一郷で首位の神社を郷社とし、その他を村社とし、村社にもならなかったものを無格社とした。そのほかに十五社制があり、神職家は村社以上の十五社を管掌する制限である。そのた

め湯縁の齊藤家管掌の神社の大半は無格社である。醫師神社は社格制度が廃止される昭和二十一年に滑り込みで村社となった。

- ・ただし無格社も「無格社」という社格であり、これを「社格なし」と考えるのは誤解である。また、井上地区の神社には津幡町の神社に見られる石造物（五輪塔・宝篋印塔・石仏・板碑等）を全く見ない。
- ・山側からの地名は、横浜・中須加・川尻と河北湯の汀線が後退していったことが分かる。
- ・井上地区には真宗大谷派性光寺（川尻）と真宗大谷派普念寺（横浜）の2カ寺しかないが、現在加賀爪の真宗大谷派妙楽寺、舟橋の真宗大谷派乗船寺、能瀬の願慧寺は川尻に縁がある。
- 性光寺は蓮如に帰依した性光坊宗全が文明六年（1474）8月6日創建。蓮如は宗全に左近の名を与え、2人の弟に右近・兵部の名を与えた。明治9年同寺庵に川尻区学校（現井上小学校）が設立された。
- 普念寺は初め天台宗の僧、道珍法印玄了が中須加に創建、後に蓮如に帰依し法名を慶了。延宝二年（1674）現在地に移転。
- 妙楽寺は永正年中（1504～21）五反田に創建。明治12年軍加町に移転。
- 乗船寺は文明年間（1469～87）川尻性光寺の開祖の弟兵部によって開かれた。
- 願慧寺は文明三年（1471）川尻性光寺の開祖左近の弟右近によって開かれた。

（註1）天神族：高高原系の神、地祇族：出雲系の神、天孫族：神武天皇以後の系統、人物神：上記以外の歴史上の偉人

参考文献

- 河北郡誌。1920。石川県河北郡役所。
 石川県神社誌。1976。石川県神社庁。
 津幡町史。1974。津幡町役場。
 歴史の道調査報告書 第1集 北陸道（北国街道）。1994。石川県教育委員会。
 日本の神様を知る事典。1995。阿部正路。日本芸文社。
 「日本の神様」がよくわかる本。2004。戸部民夫。PHP文庫。
 日本の神々の事典。1997。蘭田稔・茂木栄 監修。

- 学習研究社.
神道の本. 1992. 学習研究社.
古事記（上）. 1977. 次田真幸. 講談社学術文庫.
古事記（中）. 1980. 次田真幸. 講談社学術文庫.
古事記（下）. 1984. 次田真幸. 講談社学術文庫.
- 日本書紀（上）. 1988. 宇治谷 孟. 講談社学術文庫.
日本書紀（下）. 1988. 宇治谷 孟. 講談社学術文庫.
古典日本文学全集 I 古事記・日本靈異記・風土記・
古代歌謡. 1960. 筑摩書房.